●巻頭エッセイ　「音声授業学の一コマ」..... 1
●第 42 回「英語の教え方教室」勉強会 (案内) 1
●「英語の教え方教室」勉強会報告 2
・第 38 回勉強会、第 39 回勉強会 2
・第 40 回勉強会・第 41 回勉強会 3
●授業の玉手箱　「上手は下手の手本なり、下手は上手の手本なり」..... 4
●書籍紹介　『英語で大学が亡びるとき』..... 4
●平成 27 年度教員免許状更新講習 3 案内..... 4

巻頭エッセイ　*声学授業のヒトコマ*

夫　明美

筆者は、本校で一年生の英語必修科目「Phonetics」を担当しています。音声学の基本的理論を学び、理論を反映させて実技の習得を目指す授業ですが、担当して数年経つうちに自分の中で起こった「新しい気づき」についてご紹介したいと思います。

始めに、少しだけ背景の説明をしたいと思います。日本語と英語の音節構造を比較すると、日本語は、ほぼすべての音節（以下は、モーラ：拍という用語にかえます）が母音で終わり、子音の連続も非常にまれです。一方、英語では音節が母音で終わるとは限りませんし、子音の連続も頻繁に起こります。例を見てみましょう。

desk[desk]（1 音節）　　デスク（3 拍）
happy[hæp-i]（2音節　－は音節の切れ目）　ハッピー（4 拍）

日本語英語になると、日本語の構造にしたがう形で母音挿入が起こり、「机」の場合は、すべての子音の後に母音が続きます。「幸福」の場合は、母音の挿入はありませんが、促音「っ」や長音「―」にもそれぞれ拍を付与することで、もともとの英語からリズムが変わり、「長く」なったように聞こえます。

本稿を作成している時期はまさにクリスマスシーズンですが、授業内でスタンダードなクリスマスソング It's the most wonderful time of the year という曲を紹介しました。詞の一部に、このような表現があります。下線部に注目してください。

It's the most wonderful time of the year
With the kids jingle belling and
Everyone telling you "Be of good cheer"
It's the most wonderful time of the year
It's the hap happiest season of all

日本語の感覚でいうと、[p] という子音でモーラ（または単語）が終わるのは、すわりが悪いような感じがします。また、無理やりカタカナ英語をあてはめ、「ハッ」とすると、「ha」だけが浮かび上がっているような印象を受けます。しかし、英語の音節分けのルールでは、強勢を持つ短母音は子音一つまたは子音＋［j］を同一音節にとりこめます。

スタンダードな楽曲は音符に歌詞がきっちりとおさまることが多いので、このように、「音節構造の差異がリズムのとらえ方の差異につながることを知る」、つまり理論の理解に有効かと思います。加えて、音符にきちんと収めるために「理論を意識して」歌うことも実践力育成の活動に取り込むことも可能です。筆者の授業では今後実践に入る予定ですので、学生が「理論を活かした発音が出来ているか」を丁寧に観察し、自身の今後の授業運営にいかそうと思っています。

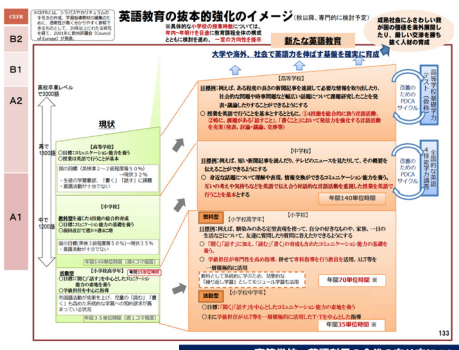
教育時事

文部科学省教育課程企画特別部会における論点整理

平成 27 年 8 月 26 日

「英語教育の抜本的強化のイメージ」

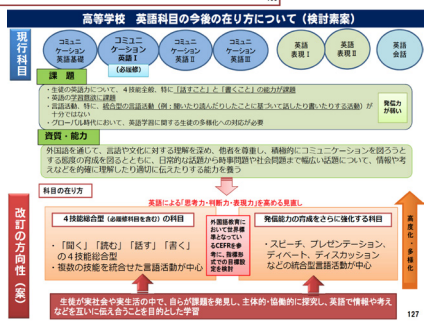
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2015/09/24/1361110_2_3_1.pdf 等より



外国語教育の現状・課題

・「エッセイなど、ある程度まとまりのある文章を書くことができている、ほぼできている」と回答した中学2年生の割合：33.6%

・言語活動を「よく行う、時々行う」と回答した中学校教員の割合：Speech：56.6 %、Presentation や Skit：36.0%、ディベート、ディスカッション：34.7 % とある。



第 42 回「英語の教え方教室」勉強会 (案内)

平成 28 年2月6日（土）　14:00 ～ 17:00

「中学生の英語の学びを促進するために-「よくわかる」「楽しい」「学習意欲」」

大阪女学院大学　　戸田　浩美　（4 年生 ）

"A study of factors to foster lower secondary school 1st year students to learn English---focusing on understandable, enjoyable, and motivating---" 卒業論文を発表します。昨今、英語教育の早期教育化や習得内容の高度化など、グローバル化の影響と思われる英語教育の改革案が示されていますが、本学生は、学びの基本要素として、「よくわかる授業」「楽しい授業」「学習意欲を高める授業」こそまず求められるべきものではないかと考え、これらの学習促進要因の特徴を概観し、中学 1 年生 (251 名) のアンケート結果の分析を通して、学習者には実際にどのように捉えられているかを考察。教育実習で展開した指導のリフレクションを通して、実際の授業での取り組みについて自身の見解をまとめようとしています。学校現場の先生にご参加いただきまして、本学教職専修の初の学生に温かい助言をお願いできればと思っております。